この世に「不要な命」は無い！

それぞれに個性があり、愛する家族がいます。

7月26日、相模原市の知的障害者施設で入所者らが襲われ、19人の方が犠牲になり、26人が重軽傷を負い入院するという「地獄変相(絵図)」を観るような痛ましくて悲しい、そして悔しい事件が起きました。　あまりのことに耳を疑いました。

犯人(容疑者)は「障害者なんていなくなればいい。安楽死させた方が幸せだ。」と言い、「障害者は周りの人を不幸にする」というナチスと同じ考えをもっていたようだ。

私たち大人の多くは、歳を重ねるとともに社会にもまれながら、ずるさなどを含めた生きるための知恵をつけて、生まれた頃の心が少しずつ濁ってきています。

しかし、彼らは生まれたときの無垢な心を持ち続け、人を疑ったり、騙したりする卑しさなどとは縁の無い生き方をしていて、時に私たちに「人間らしさ」を示唆してくれます。
生まれながらにして知的な面でハンディを背負ってきた子供たちは誰もが神の子であり、素敵な魅力、不思議な力をもっています。ただ、今の社会環境の中では彼らの素敵な魅力、不思議な力を発揮できないでいるだけのことなのです。

「国連障害者の10年」などを経て、ハンディをもっていても地域社会を構成する者の一人として地域で共に生きることが当たり前の社会なのだと、地域の目が変わってきています。
これからも、私たちの活動で「地域との触れ合い」は欠かせないことだと強く感じています。

当会の上部団体「全国手をつなぐ育成会連合会」は、障害のある人向けのメッセージを出し、「もし誰かが『障害者はいなくなればいい』なんて言っても、私たち家族は全力でみなさんのことを守ります。ですから、安心して、堂々と生きてください」と呼びかけました。

今朝の新聞に「働く障害者虐待、倍増」の見出しがありました。雇用主や上司から虐待を受けた障害者は970人で、前年度の483人から倍増した。最賃未満で働かせたり、残業代を払わない経済的虐待のほか身体的虐待や心理的虐待を受けた人数も約2～3倍に増えた。

虐待を見つけた人に通報を義務付ける障害者虐待防止法が浸透したためとみられるそうだ。
このように、障害者を見下し、尊厳を傷つける心無い人々がいるのが現実なのです。

保護者会員の皆さん！　神様は、私たちに神の子を授けました。『神様に選ばれた親たち』を誇りに、力を合わせ全力でこの子たちを守りましょう。
賛助会員の皆さん！　関係機関・団体等の皆さん！　神の子たちが素敵な魅力、不思議な力を出し切って自立し、地域から必要とされる社会にするために、これからも引き続き私たちの活動を応援してください。

平成28年7月28日

鹿角手をつなぐ親の会　会長　兎　澤　正　文
（秋田県手をつなぐ育成会副会長）

鹿角手をつなぐ親の会会員の皆様
鹿角地区関係機関・団体等の皆様